

I-1 家庭生活と消費

■ 生活に必要なものの流れ

《物資とサービス》

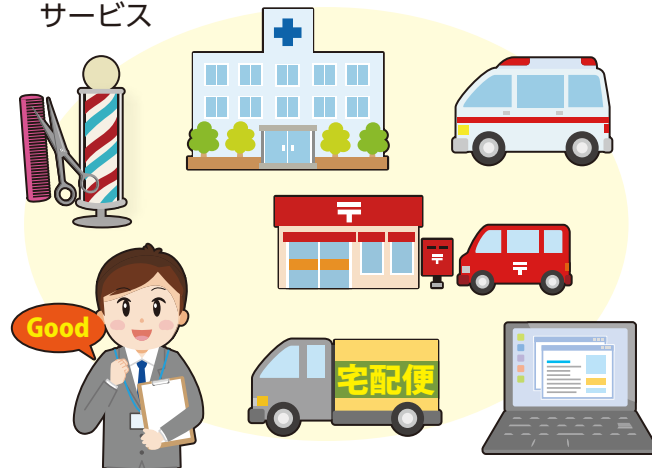
物資

お店などで売られている形のある用品



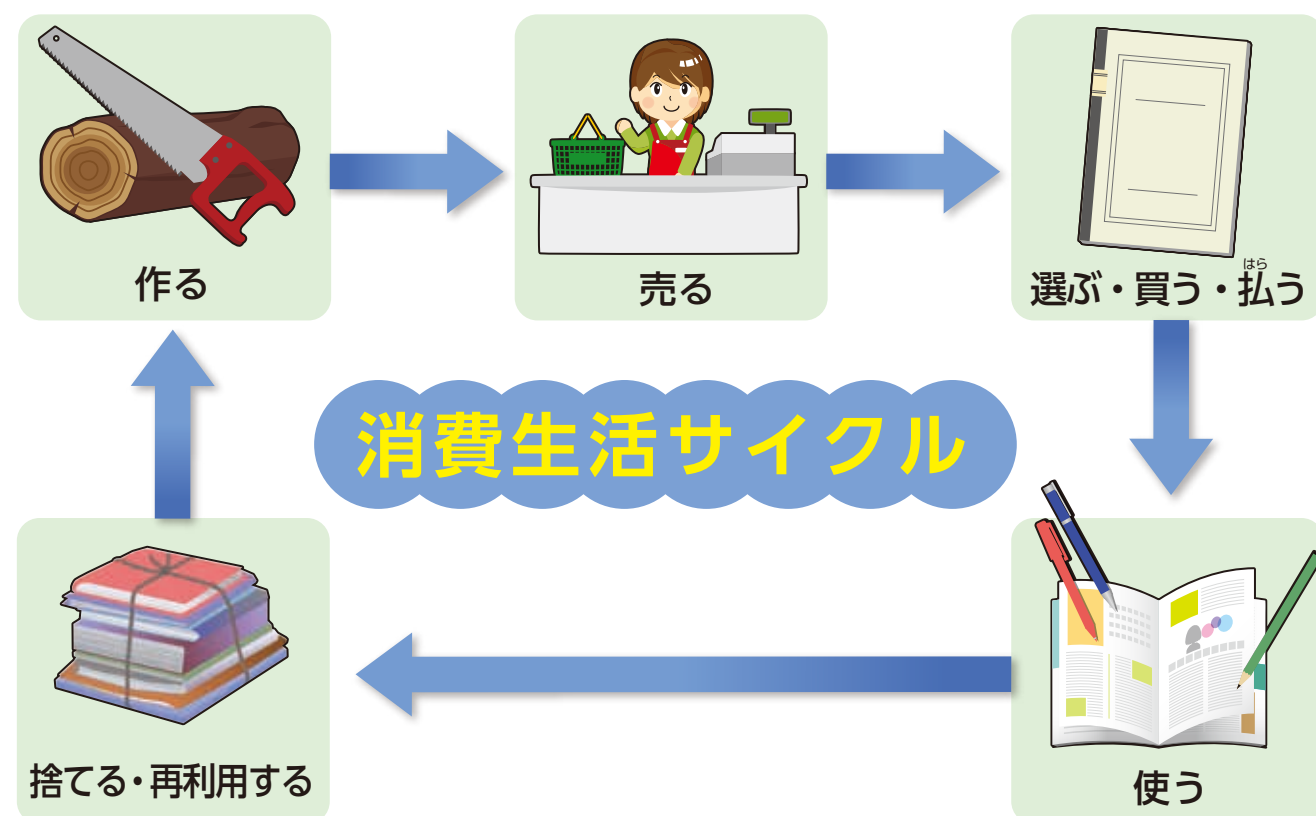
サービス

企業や公的機関によって提供されている用役・サービス



物資やサービスを購入し利用することを「消費」といいます。働いて得た「収入」で購入した商品の代金を支払います。何を購入するかをよく考え、収入と消費のバランスを取ることが必要です。

■ 消費生活のしくみ



I-2 商品の選択と購入

① 商品購入のプロセス

私たちのまわりには、いろいろなお店があり、選びきれないほど多くの商品があります。

私たちは、たくさんあるお店、商品の中から欲しいものを選び、買い物をしていますが、本当に自分にとって必要なもの、目的に合った商品を選んで買い物をしているでしょうか。

新商品が発売されたり、宣伝や広告を目にしたりすると、本当は必要がないのに買いたくなってしまいます。商品を選ぶ時には、まず「今の自分にとって必要か」を考えなくてはなりません。必要だとしたら、適正な価格化、目的に合ったものか、安心して使うことができるものか、さらに環境に気を配っているかなど、次のポイントを考えることを習慣にしましょう。

商品を選ぶ4つのポイント

価格

- 商品に見合った適正な値段か。
- あらかじめ考えていた予算内なのか。
- 同じ商品でも店や期間によって価格が違うことはないか。



品質

- 材料や素材、品質は良いか。
- 目的に合った機能、サイズかどうか。
- 使う（食べる）にあたっては安全かどうか。
- すぐに壊れたりしないかどうか。



保証・アフターサービス

- 保証書や取扱説明書（使用マニュアル）があるか。
- アフターサービスはあるか。
- 補償の期間や内容はしっかりしているか。
- 補償の内容は無料か有料か。



環境

- 環境に気を配った材料を使っているか。
- 資源やエネルギーの節約に役立つかどうか。
- 使い終わった後にリサイクルはできるか。
- 包装が大きさでないか。



このようなポイントを理解するためには、実際にお店で商品を見る前に、情報を集めておくことが便利です。売り手からの情報は良い点だけを強調していることもあるので、より多くの情報を集め、じっくり考える習慣をつけましょう。情報を集めること、選ぶことは消費者の権利・責任です。

Point



商品を選ぶその前に、情報を集め、考える習慣を身につけよう！

情報を集めるには、新聞や雑誌の記事や広告、TVコマーシャル、インターネットで検索、友人の口コミ、パンフレットやカタログなどが活用できます。また、販売方法や商品についている表示やマークも大切な情報です。それらの意味を理解し正しい情報を集めることができます。

② 生活情報の活用

消費者が商品を購入しようとするとき最も参考にするのが、その商品に関する説明書（表示）になります。消費者の必要な情報を適切に伝えるために、表示の仕方が下のようになっています。

【主なマーク】

マーク	名 称	内 容
	JASマーク (農林物資の規格化 及び品質表示の適 正化に関する法律)	成分や食味、香り、色などの品質についてJAS規格 (JAS一般規格) を満たす食品に表示。
	有機JASマーク (有機食品の検査認 証制度)	有機食品（有機農産物と有機加工食品）の表示。 このマークが付されていない農産物と農産加工品に は「有機」と表示することができない。
	生産情報公表 JASマーク	業者が主体的に生産情報（生産者、生産地、農薬、 肥料の使用情報など）を消費者に正確に伝えている ことが認められた食品。
	Sマーク (クリーニング業、 理容業及び美容業 の標準営業約款)	理容業、美容業、クリーニング業などの生活衛生関 係営業が、提供するサービスや技術の内容を適正に 表示するもの。
	JISマーク (日本工業規格)	消費者が安心して品質の良い商品を手に入れるよ う、国が定めた製品規格に適合する品物にJISマ ークを表示できる。
	PSEマーク (電気用品安全法)	「電気用品安全法」の規準に適合した製品につけら れる。 (電気アイロン、電気掃除機、電気スタンドなどの 特定電気用品以外の電気用品)
	住宅機能表示制度 (住宅の品質確保の推 進等に関する法律)	住宅性能表示制度は、住宅の性能（構造耐力、省エ ネルギー性、遮音性等）に関する表示の適正化を図 るための共通ルールを設け、消費者による住宅の性 能の相互比較を可能にする。



③ 情報収集と選択の必要性



～いろいろな商品を選ぶ条件の例～

商品を選ぶ条件は、次のようにさまざまなことがあげられます。何を優先して選択するかは購入するものや、予算などによって異なってきます。

生鮮食品

- ・新鮮か
- ・産地はどこか
- ・値段は適正か予算内か
- ・商品を見て品質を確認する
- ・ゴミがでないか



加工食品

- ・値段は適正か予算内か
- ・味がよいか
- ・好みに合うか
- ・品質はよいか
(賞味期限、原材料、原産国、マーク、保存方法)
- ・ゴミがどれくらいでるか、分別の方法はどうか



衣 類

- ・着用の目的に合っているか
- ・値段は適正か予算内か
- ・サイズは合っているか
- ・デザイン・色は気に入ったか
- ・他の服との組み合わせはよいか
- ・品質はよいか（組成表示・マーク）
- ・手入れの方法はよいか
(洗濯、アイロン)



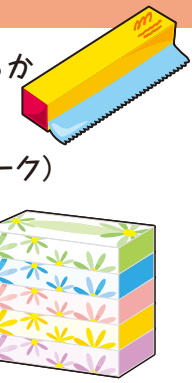
電気製品

- ・使用の目的に合っているか
- ・値段は適正か予算内か
- ・性能はよいか
- ・使いやすいか
- ・機能は納得のいくものか
- ・必要な機能を満たしているか
- ・品質はよいか（表示・マーク）
- ・補修やアフターサービスは保障されているか



日用品

- ・使用の目的に合っているか
- ・値段は適正か予算内か
- ・品質はよいか（表示・マーク）
- ・環境に配慮した素材か
- ・分別の方法はどうか



家 具

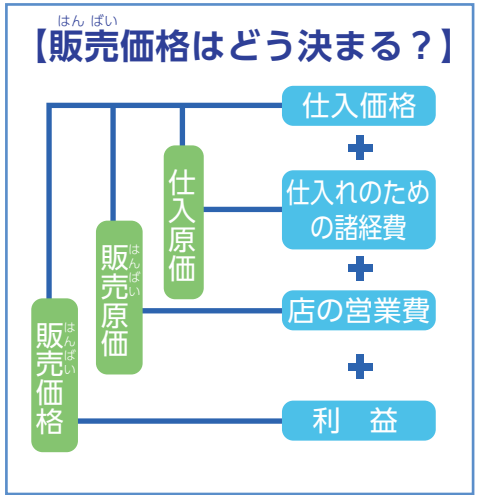
- ・使用の目的に合っているか
- ・値段は適正か予算内か
- ・材質・デザイン・色・重さは気に入ったか
- ・品質はよいか
(表示・マーク)
- ・使用後の処分の方法はどうか



④ 商品の価格の決まり方

一般に商品の価格は、品物の品質や提供のされ方の違いによって異なります。たとえば「ほうれんそう」のように、栽培方法や人件費、輸送費、流通経路などによって違ってきます。また、物価が下落しているような場合は、商品の価格を低下させないと売上額も増えないため、低価格競争が進んでいます。例えば、「百円ショップ」や「無印商品」の人気、「ディスカウントショップ」「大型店」の進出などです。

一方では、高級ブランド志向の増加や、高価格の限定商品がすぐ売り切れるなど、自分の生活の豊かさを求めたライフスタイルの定着も進み、商品の選択の規準は「安い」だけではない時代になっています。



⑤ 販売方法

【販売方法の特徴】

店舗販売	無店舗販売	
	通信販売	訪問販売
スーパー、コンビニ、デパート、八百屋、肉屋	カタログ、雑誌、テレビ、インターネット	化粧品、食品、教材
商品を直接見て買える	買い物に行く手間が省ける	家庭で買い物ができる

※ その他の無店舗販売・・・街頭販売、自動販売機、移動販売

⑥ 支払方法(○メリット △デメリット)

前払い	即時払い	後払い
図書カード、定期券	現金、(デビットカード)	通信販売の支払い、電話料金、電気・水道料金、クレジット
○ お金と同じに使える △ 使い忘れる	○ 自分の小遣いや収入に見合った買い物ができる △ 現金がないと買えない	○ 現金がなくても利用できる △ 使いすぎる

【通信販売を利用するときの条件】

- ① カatalogや説明書を取り寄せ、商品について調べ、納得してから注文する。
- ② カatalogや広告は、商品を使用するまで保管する。
- ③ 送料の負担・代金の支払い方法・商品の引き渡し方法・解約・交換はできるか、解約手数料等を確認する。返品トラブルが多い。
- ④ 通信販売の場合はジャドマ・マーク、インターネット利用の場合はオンライン・トラスト・マークがついているかを確認する。
- ⑤ 取引の際、個人情報の入力最低限にする。



⑦ カードの種類

●電子マネー

現金の代わりに支払いをデジタルデータで行うものが電子マネーです。ICカードや携帯電話、電子マネー運営会社のサーバーなどにチャージして使用します。

- ・「プリペイド（前払い）方式」＝あらかじめ現金をICなどのチャージする。
- ・「ポストペイ（後払い）方式」＝使ったあとに金融口座から引き落とされる。



※「サーバー型（ネットプリカ）」
コンビニ等やウェブ上で、ID番号を購入し（便宜的に磁気カードを発行する場合もある）ネットショッピング等のサイトでID番号を入力すると利用料金がそのIDから差し引かれる仕組み。

- 長所**
 - ・現金を持ち歩かず、サインも不要なので買い物がスピーディに行えます。
 - ・「電子マネー決済の証票」(伝票)は保管しておく。
- 短所**
 - ・無記名・前払い式電子マネーカードは基本的に保証がない。小銭を入れた財布と同じ。
 - ・記名・前払い式電子マネーカード(クレジットカード一体型、おサイフ携帯など)は、届け出等により利用停止が可能。

●デビットカード

銀行のキャッシュカードを、そのまま買い物に利用できるカード。お店などでカードを使うと銀行に預けてある預金から自動的に代金が支払われる仕組みです。



- 長所**
 - ・銀行に預けてあるお金の分だけ買い物ができる。
 - ・カードを使うとき暗証番号が必要なため落としたりしても安全。
- 短所**
 - ・預金の残高を確認しておかなければならない。
 - ・利用できるお店が限られている。

●クレジットカード

クレジットカードのクレジットは「信用」を意味します。買い物した時、カードを発行している会社が代金を一時的に払ってくれるシステムです。もちろん、後からカード会社に代金を支払わなければいけません。



- 長所**
 - ・収入が多い人ほど、たくさん買い物ができる。
 - ・他のカードにくらべて使える店が多い。
- 短所**
 - ・後からまとめて代金を支払うので計画的に使う必要がある。
 - ・他のカードにくらべて使える金額が大きいため使いすぎてしまうことがある。